



第16回写真コンクール 佳作『秋 彩』子上金作(読者)

沼津建設業協会
広 報 誌発行・編集
沼津建設業協会広報委員会
沼津市御幸町17-12
電話(055)932-8311

発行日 隔月1日

長く暑かった夏も終わり、多くの農作物が収穫を迎える秋となりました。田んぼは、たわわに実った稲穂で埋めつくされ、実りの秋の行事も目白押しです。地域の神社ではさまざまな趣向で秋祭が行われていることでしょう。

調べてみると秋祭とは、八百万の神々に収穫を感謝する収穫祭とあります。古くより日本人は秋になると神々に対して豊年感謝の気持ちを込めて祭を行なってきたのでしょう。また、その神々もこの季節には出雲大社に集まってしまうため、日本各地から神様がなくなってしまうので旧暦の十月は神無月と呼ばれるそうです。

ところで、つらい暑さだった今年の夏を乗り越えた人にとっては、ごほうびのような季節ですが秋といえば、スポーツ、食欲、読書そして旅行でしょうか。

私が思うのに、一番気にな

るのは旅行、それも社内旅行です。社内旅行とは慰安旅行であり、一年を通じて社業に貢献してくれた従業員や、役員に対して行うものである。慰安とは調べると、なぐさみをして心を休ませること、とあります。バブル期には税金対策も含めた海外旅行を行うなどは珍しくもない話であったようですが、昨今のような時代では税金対策などもない、会社が慰安旅行をやるだけでした、と思うのは私だけでしょうか。一年を通



秋

大藤建設(株)

町田

直繁

じ田畑を耕すかのように会社に貢献した職員たちの労をねぎらうには秋の収穫に感謝する秋祭のようなイベントも必要です。しかしこの様な時代、心で思ってもなかなか思うようには物事は進みませんが、慰安という本来の意味にたちかえって今年は実行しようと思っています。まずは近場から……

もう一つ秋といって気になるのはスポーツ、そしてスポーツといえば、なんといっ

も今年大きな話題となった米大リーグのイチロー外野手でしょう。渡米して四年間、毎年二百安打以上を達成という大リーグ始まって以来の成績を成し遂げただけでも快挙なのに、大リーグの年間最多安打記録を八十四年ぶりに塗り替えるという偉業を成し遂げ日本ばかりかアメリカ中を興奮させました。暗いニュースが飛びかう昨今において多くの人々に夢と希望、生きる活力を与えてくれるビックニュースに万国共通語であるスポーツの効果と意味を改めて感じます。ちなみに我家では、サッカー好きの娘のお陰でJリーグには、かなり詳しくなり、先日家族でエコパまで観戦に行ってきました。選手達のハードな動きを見るたび、毎日のトレーニングの大切さが伝わってきます……ふと我身を振り返ると年齢と共にスポーツする機会が減り(無くなり)増々体力の衰えを感じる昨今です。

健康とは辞書によれば、からだに悪いところがなく元気なこと、とあります。自らの元氣維持の為に毎日続けられるスポーツを始めなければと痛感しています。

特別寄稿

「水の惑星」

生命の営みのある地球環境を考える (51)

世界の灌漑用地下水が

枯渇の危機にある

その①

環境カウンセラー

保坂貞治

1 灌漑農業

灌漑農業を行っているインド、中国、アメリカ、北アフリカ、アラビア半島、オーストラリア、パキスタン等の国々は、年間降雨量が少なく灌漑により穀物や野菜等の生産をおこなっている。灌漑には流水を使うが間に合わない地下水が利用される。揚水には地下にある帯水層まで井戸を掘削して汲み上げる。帯水層が浅い場合は簡単な管井戸でも良いが、深いと大がかりな深井戸を掘らなくてはならない。近年は掘削技術の向上と強力なポンプが開発され大量に地下水を汲み上げられるようになった。掘削技術と性能の向上により灌漑農業の生産

性は向上した。しかし、揚水も地下の帯水層の汲み上げ量と降雨による地下水の補給のバランスが保たれていれば良いが、殆どの灌漑農業地帯は元々降雨量が少なく、地下の帯水層の水は、かつて雨が多くの降っていた時代の遺産で化石水である場合が多い。地下水をどんどん汲み上げると、

地下水位が下がるばかりかやがて枯渇する時が訪れる。枯渇の危機に瀕した世界の国々の水事情を考え、地球に生息する全ての生き物は、水を介して生命活動が営まれ、生命の継承がなされている。この事を考え、地下水の保全対策を真剣に考えないと、地下水の枯渇、水不足、食糧の減産

と様々な影響が広く及ぶことが懸念される。

(1) 地下水の過剰汲み上げと

地下水層の枯渇

米テキサス州デフ・スミス郡の農業灌漑用に掘られた井戸が、36年も大量に汲み上げられ農場に散布し豊かな収益を上げていたのに、1970年に枯渇してしまった。気づくと周辺の井戸も次第に枯れていった。調査で大量の地下水の汲み上げにより地下水位が24mも低下していたのでした。地下水位は広大なテキサス州ハイブレイズー帯で低下していたことに加え、70年代のエネルギー価格の高騰で地下深所からの汲み上げがコスト高で、数千箇所の井戸が閉鎖を

余儀なくされ灌漑農業に大きな打撃を与えてしまった。

ここ30年の間に世界の灌漑地で地下水の帯水層と呼ばれる地下水の貯水層の枯渇が広がっていることが問題となっている。かつては農業の灌漑に使用する水の量が降雨による自然補給量を上回らずバランスがとれていたのに、農業の近代化と大規模農業により自然が補給する水の量を上回る地下水の汲み上げが行われ地下水位が年々低下を始めた。今日の地下水の過剰揚水は中国の中央部と北部、インドの北西部と南部、パキスタンの一部の地域、アメリカ西部一帯、北アフリカ、中東、アラビア半島の農業地帯で広く行われている。地下水の過剰利用は都市の水利用にも当てはまる。バンコクやメキシコ・シティの一部では地下水の汲み上げで地盤沈下が起きている。ニューメキシコ州アルバカーキ、アリゾナ州フェニックスやツーソンなどアメリカの大都市でも帯水層から過剰に揚水されている。

地下水の枯渇は世界全体で

は、最も大きな問題は農業である。世界の食糧生産で灌漑地は突出している。世界の農業生産量の約50%は、世界の耕地面積の17%を占める灌漑地で生産されている。降雨に依存した農業生産の拡大には限度があり、増え続ける世界の人口増は灌漑農業に頼らざるをえない。灌漑農業が拡大すれば地下水の枯渇が起こる。またエネルギー価格が高騰すれば地下水の揚水がコスト高になり、多くの農民は灌漑農業が続けられない。現在の灌漑農法は歴史が浅くその60%は50年も経過していない。近年は地下水の枯渇に加えて灌漑過剰により土壌塩類の集積が起こり問題となっている。また、貯水池や運河への沈泥、都市と農業地帯、川を共有する国家間の水を巡る競争の激化、水不足地帯の人口増、気候変動による降雨量の変動等地下水の需要と自然の供給のバランスは崩れ過剰な揚水は深刻な問題となっている。

未来に向けて

第61回

教育現場における課題

1、はじめに

熾烈な偏差値競争に代表される学歴偏重社会から脱却すべく、颯爽と登場した「ゆとり教育」。しかし、期待とは裏腹に「学力の低下」や「モラルの欠如」といった弊害ばかりがみえてくる今日この頃です。

2、学力の低下

ゆとり教育の概念は、受験戦争や偏差値教育の是正等を課題とした一九八〇年の学習指導要領の改訂から始まっているものと考えられます。即ち二〇年以上にわたって、ゆとり教育路線が進められてきたのです。では「ゆとり教育路線」の中で育った子供たちは今どういう状況にあるのでしょうか。実際に高校で現場にかかわっている教師の声を要約するとおおよそ次のようになります。

- ・動詞や形容詞といった品詞の区別がつかない。(英語)
- ・アルファベットすら、きちんと書けない。(英語)
- ・九九がわからない。(数学)
- ・分数同士の足し算ができない。(数学)
- ・漢字が並んでいること自体に抵抗感があるため、教科書が満足に読めない。(国語)
- ・漢字の書き順がメチャクチャ

で、一筆書きをする生徒が多い。(国語)

等々です。これが高校生かと思ふとかなり怖い話です。ごく基本的な学習事項でさえ、知識として定着しないまま義務教育課程を修了している生徒が少なからず存在するので、このような状況が深刻なのです。生徒たちの間では「勉強はわからないからつまらない」「つまらないから勉強しない」という負の連鎖が形成されているのです。高校は基本的に学力を基準として生徒が集まってくるので、学力下位校では前述の負の連鎖が顕著であり、授業自体が成立しないことも珍しくありません。

3、モラルハザード現象

深刻化が懸念されるのは生徒たちの学力低下だけではなく勉強しなくなった生徒たち、授業中でも平気でジュースを飲みポテトチップスを食べます。「地べた座り」や「どこでも化粧」も、もはや当たり前です。こういう生徒を前にすると、学力の低下を嘆くよりも、人間としてのモラル低下の方が心配になります。特にそのような生徒が多い学校では、保護者からして学校

や子供への関心が薄いという傾向があります。もはや生徒を教育・指導するだけでは状況の改善は見込めないのかも知れません。

4、広がる格差

学力低下やモラルハザードが問題になると、まず追求を受けるのは教師です。確かにこのところ、不適切な行為や体罰事件などでニュースに登場する教師の数は増えているように感じます。不登校の教師がいるのも事実です。問題は起こさないまでも指導力不足と考えられる教師もいます。

実はそういった教師たちも大学時代はそこそこ優秀だった人が多いようです。しかし、彼らは、自分で試行錯誤しながら指導方法を構築していく想像力とか、多くの生徒を惹きつける人間的魅力や熱意、或いは忍耐力に欠けるように感じます。実効性のある「ゆとり教育」を進めるには、教師の力量や意識がなにより大切なのですが、その辺が不十分なまま「ゆとり教育」は進められてきたように思えます。教師に教える力が備わっていないければ、どんなに教えられる内容を削減してもナンセンスなのです。

勿論その対局には、切磋琢磨

磨に余念がなく、常に生徒のことを真剣に考え、豊かな創造力と熱意で、高い目標に向かって一生懸命取り組んでいる教師もいます。

その結果、手腕に優れた教師と勉強に意欲的な生徒が揃った学校と、怠慢な教師と勉強嫌いな生徒が揃った学校とでは、大きな格差が生じています。見方を変えたと、ビジネス社会の「勝ち組」「負け組」の論理と似ています。経済的に余裕のあるところがますます優位に立つという構図です。

経済優先でなく、努力が報われる社会づくりに今こそ取り組む必要があります。そして子供たちが「志」をもって学び、努力の結果その「志」を遂げることができるような社会の仕組みを構築することが急務なのです。



日本経済新聞のコラム

「量」の下「古新聞」 諸井 薫
「禁酒令」 「アメリカから見た、戦後五十年」から

「禁酒令」

いまや、女性の飲酒は、当り前で、そのことに眉をひそめたら、袋叩きに会うかもしれない世の中になった。

昭和十年の新聞記事。

「カフェーやバーで働く女性の飲酒に、警視庁が禁止令を出した。その理由は、客に酒を強いられること。経営者が奨励すると、歩合を目当てに、酒を飲まないと、稼ぎにならない。

(このあたりは、現在もさほど変わらない) この酒のために、健康を損ね自堕落の道を辿る女給が増え、さらに。酒ゆえに、見知らぬ男に貞操を奪われ、死を以て清算する悲劇すら、生むに至った。これら幾多の被害を防ぐため、女給の客席における飲酒を禁止し、これに違反した者は、女給といわず、営業主といわず、厳重処罰することにした。とあった。

警察の石頭には、失笑するばかりだが、今の警察も、原因究

明の取り調べに、膨大な労力を費やしなが、結論は、石頭流であるところが、なんともおかしい。

一方で、明治の男たちの、女性に対する、並々ならぬ優しさを

感じる。女性解放論者は、戦前の日本の男は、女性を玩弄物視して、憚らない度し難い、女性蔑視の典型。とということになるが、この禁酒令は、フェ

ミニストの言説のような響きが

古雑誌の随筆 (その三十六)

後藤貞一

ある。

男たちの胸の底には、今も変わらず、大切に思っている女性(娘とか、恋人とか)に酒を飲んで欲しくない、という気持が潜んでいる。その理由を、昔の警視庁の役人が、いみじくも述べているところに、おかしみがあるのかもしれない。

古い世代が心配するのは、加減を知らない学生や、OLが、若気の至りで、暴走すること

あって、近頃のプロのホステス嬢は、見た目は立派で、値段の高いカクテルを、御馳走になる。勿論、このカクテルは、アルコール抜きである。

「アメリカから見た、戦後五十年」(変わらない同盟関係)

平成七年は、戦後五十年ということで、さまざまな角度から、戦後論が展開された。

日本の論説は、数限りないが、

作り上げた実績からみて、大組織の管理、運営に、たけている。

○アジアで唯一、近代的な工場を建設する技術力がある。

○多数の熟練労働者が存在する。

○世界で類をみない、規律の高い国民性である。

○天皇の下で、固く団結している。

こうした長所は、場合によ

る。

アメリカが、海空両面から極東を防衛するうえで、日本は北方に位置する命綱であり、最も重要な拠点だ。

沖縄にある基地などを失えば、極東にある防衛ラインは崩れ、日本は孤立するおそれがある。

これは、朝鮮戦争の真つ只中に掲載された記事だが、第二次世界大戦終結の翌年、早くも、

米ソ対立が表面化し、欧州は東西に分断され、アジアは朝鮮半島で発火し、第三次世界大戦勃

発かと、懸念された時期である。つい六年前、徹底して武装解除し、世界に類をみない、戦争放棄と、軍隊を持たない国を宣言させた、敵国日本に対し、こ

れ程までに、期待しなければならぬアメリカの、焦燥と不安

がうかがわれる。

あれから四十五年経った、戦後五十年極東から不安要因は消え去ってはいない。

日米の関係もまた、何程も変っていないことが分かる。

アメリカからか得たと考えている。然し、新たな同盟関係を構築するには、日本の防衛力と、経済力を補強しておく必要があ

○死ぬまで、戦い抜くほど、意志が強い。

○大規模な艦隊と、航空部隊を



第87回

井口省吾は、安政二年（一八五五）八月十日、駿河国駿東郡 上石田村（現在の沼津市大岡）に井口幹一郎の次男として生まれました。幼名は誠之助といい兄一人弟一人がいました。

井口の先祖は、武田勝頼の遺臣で徳川家康に滅ぼされて沼津に落ちのび、同地の星野家と縁を結びました。以来井口家は農業を営み名主役を務めました。井口省吾の曾祖父である井口当直（一七七九—一八六〇）と、祖父の井口応明（一八〇五—一八六二）は沼津の国学の著明な研究家として知られています。

また、当直は行儀作法に非常に厳格な人で、幼い省吾もきびしく育てられました。

井口省吾の生まれる前年の安政元年（一八五四）といえば、日本はアメリカ、イギリス、ロシアと条約を締結して開国を余儀なくされた年です。

時はまさに幕末、激動の時代に省吾はこの世に生をうけたのでした。

省吾は、八歳のころから、沼津藩士島津恂堂の漢学塾に入り、明治二年十四歳になる

井口省吾陸軍大将

益田 實

（沼津史談会相談役）

と地元の沼津兵学校附属小学校に入学しました。

沼津兵学校は、幕末、洋学研究の中心として設立され、維新後、有名な政治家の島田三郎や経済学者の田口卯吉らを輩出しました。

維新後、同校は小学校を併設しましたが、これは学制による小学校ではなく、廃藩置県に伴って設置されたものです。

明治八年（一八七五）二月陸軍士官学校が初めて一般から生徒を募集した際、井口はこれに応募し、第二期生として入学しました。井口二十歳のことでした。

このころ、明治政府は周辺諸国に目を向けはじめ、台湾出兵を行い、ロシアと千島樺太条約を締結しました。

井口は、明治十二年十二月、陸軍士官学校砲兵科を卒業し、

に、編成、兵棋、参謀服務、鉄道輸送などの講義を担当し、まもなく十一月に少佐に昇進しました。

明治二十六年（一八九三）

十一月野戦砲兵第四連隊第三大隊長を命じられ大阪におもむきました。彼にとっては久しぶりの隊付き勤務だったのです。

明治二十七年（一八九四）

日清戦争が始まり、井口は、作戰主任参謀を命ぜられ第二軍司令官大山巖の下で行動を共にすることになりました。

明治三十五年、四十六歳で少将に昇進した井口は、日露戦争において、満州軍総司令部の参謀という要職にあり、大山総司令官に対し数々の意見を具申しました。当時の国の内外の状況をふまえ、さまざまな苦境を乗り越えることのできる識見と能力は高く評価されていました。

井口は、明治三十九年（一九〇六）陸軍大学校長に就任しました。井口の今までの軍政・実戦・参謀本部総務部長、そしてドイツ留学という貴重な経験は、教育現場や学生への大きな説得力となりました。

語学教育の改善や、品格と日常の修養を一貫して重視することが井口の根本姿勢だったのです。

大正五年八月、軍事参謀官に補せられた六十一歳の井口

には、現場将校としてではなく御意見番としての役割が期待されたのでした。

大正九年六十五歳の誕生日を迎えたこの日、郷里沼津へ帰り、隠棲しました。

大正十四年三月三日、沼津市郊外で、波乱に満ちた六十九年の生涯に幕を閉じました。

井口省吾の生涯をかえりみると、藩閥の機運が濃厚だった明治期において、陸大を卒業、陸軍部内の中枢を歴任、日露戦争では満州軍総司令部内で兵站の要務を果たしました。また陸大校長として後輩を育成するなど輝かしい功績を残しました。

井口が沼津に生を受けたことはわたしたちの誇りともいえます。

現在、長泉町下土狩に居住される井口泰平さんは井口省吾大将の継嗣にあたります。

静岡探検倶楽部

第二十六回 自転車にチャイルドシートをつけました 文 井下 秀文

家内が言う。

「そろそろ子を自転車に乗せたいんだけど」

生後十ヶ月のわが子は、まだ歩けない。買い物や散歩はいつもベビーカーで連れまわされるだけである。ということは、親もいつも歩きである。外出好きな親たちであるが、さいきん行動範囲が限定されていることに気がついたのだ。

自転車ならば、行動範囲が広がる。買い物はともかく、散歩の行き先が増え、格段に楽しくなる。探検だってできるではないか。あちこち出掛けたい親たちの欲求に、子供を巻き込んでしまおう。

家内の自転車はママチャリではなく、マウンテンバイクである。これは私の趣味と方針によるもので、遊びや旅行で快適に使えるモデルを選んでいる。三年前に購入し海山の遊びから日常生活まで大い



▲よく目立つチャイルドシート。



▲子供を乗せて試運転。これはいけそう。

に活躍したが、出産育児に伴い、一年半ほど使わないでいた。しかしここにきて復活だ。

最近ではスポーツ車に取り付けるためのしっかりとしたチャイルドシートが売られている。今までの母親用品とは違う雰囲気、進化ぶりに驚く。

後輪の部分に荷台を取り付け、その上にシートを乗せる

タイプのものを選んだ。背もたれがある椅子形シートだ。

安全について、よく考えてあり、子供が脱落しないような肩からかけるシートベルトがあり、足を巻き込まれないためのカバーとベルトがあり、拘束については万全そうだが、さらに、座面の下にスプリングがついていて、段差の衝撃

をやわらげる豪華仕様だ。メーカはトピークといい、アメリカ製。

実際に取り付いたその姿は、なんだか大げさなものだった。シンプルこそ美しく機動的な自転車として扱ってきたのに、この変わりようはあまりに激しいではないか。このシートは二〇kgまでの子供を乗せることができるとのこと、なんとも大きい。イスが走っているような印象だ。

だが道具の味は、使ってみなければわからない。まだヘルメットも買ってないのに、さっそく子供を乗せて試運転してみた。多忙な父親は今のところ夜にしか活動できない。

まず子供を乗せる。子供が暴れないように、自転車を倒さないように乗せるのは慎重を要する。三点式のシートベルトは股下から肩の上までたるみのないように確実につける。さらに足のベルトをかけ、これで子供は拘束された。

しかし次に大人が自転車に乗るのがたいへんだ。ふだんはサドルの後ろに足をまわして自転車にまたがるのだが、

サドルの直後には子供がいるので、いつもどおり脚をまわしたら、子供をキックしてしまう。自転車のハンドル寄りの前側に体を寄せて脚を上げて、ひざを小さく曲げて乗らなくてはならず、つらい体勢だが仕方ない。

さて漕ぎ出そう。まだ公道に出るわけにはいけないので、駐車をまわるしかない。自転車が発進しても、後ろの子供の様子はわからない。なるべく段差や急ブレーキを避けながら、ゆっくり走る。風を体で受けながら、景色が変わる気分はどんなものだろう、と数分走っているうちに、子供はうなだれて寝てしまった。

まあ、寝てしまうぐらいだから、乗り心地は苦ではないということにして(夜だから眠かったのかもしれない)、今後はあちこち連れ出すことができそう。急いでヘルメットを買って、こんどの週末に備えることにしよう。

というわけで、次回からしばらく、子連れで行くサイクリングシリーズとします。

「からだづくりの教室」便り



宮本悦子(8)



素敵な肩たたき

肩をたたいてもらったことはありますか？

その時痛くても我慢しましたか？ずっとたたいてもらいたい位気持ち良かったですか？一生懸命たたいてもらっているのになかなかほぐれないので悪いなあと思いましたか？

肩をたたいてあげたことはありますか？
たたいている自分の方が疲れましたか？ひどい肩凝りではなかなかほぐれないのでつい「まだあ」とか「もういい」とか言ってしまったか？
たたく拳にどんな力が入っ

ていきましたか？

これではたたく人もたたかれる人も不平不満が残るばかりです。

肩凝りを強く感じるコリコリの硬い処に拳をたたくように当てている肩たたきはもう終わりにしませんか。

必ず喜ばれる方法

さっそく始めましょう。この方がずっと楽であり、喜ばれるのは容易にわかります。

♪「母さんお肩をたたきましよう、タントントンとんタントン……♪の歌を思いうか

べて下さい。リズムや速さはこの位のふんいきです。

拳は握るというより軽く指を曲げる程度です。必ずしも握らなくても良いと思います。

たんとん、たんとんのリズムで自分の両腕を動かしてみます。硬く凝った肩が目前にあるとは全く思わないで、ひたすらに自分自身の腕の動作とを考えます。

自分の両腕をただただ動かしているだけです。手首や肘、肩からは余分な力がほとんどん抜けてゆくのがわかります。すると自分自身がとても楽な体に変わります。この時には拳にもほとんど力が入っている様子はありません。

気持ち良さそうに腕を動かしている、そのふんいきのところに、肩をたたいてもらいたい人が入り込んでゆくのです。肩が楽になったら、そこから出てゆくような、そんなイメージで、肩をたたく人とたたいてもらう人のつながりを作ってみましょう。

ですから、肩をたたく人は自分の前に肩があってもなくても同じように自分の腕を動かしかし続けるだけのことです。

この肩たたきを受けると本当に今までに味わったことのない気持ち良さがあります。

『からだづくりの教室』の公開講習ではこの方法で肩たたきを試してみると――

「こんなに気持ち良いならず〜っとやって欲しい」

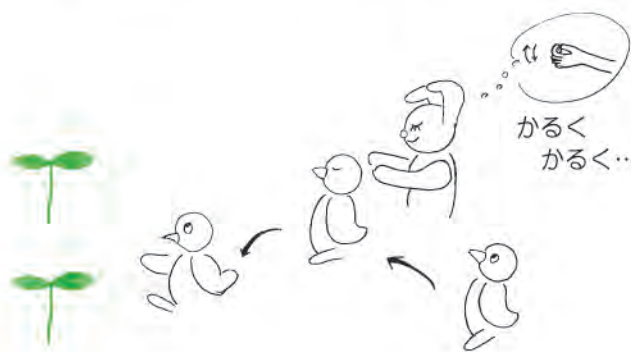
「こんなに楽にできるものならず〜っとたたいてあげられる」

と、皆さんの口から出る言葉

です。それ程違いがあるので。力まかせに硬い肩をたたくのではありません。たたけば柔らかくなると思いこんでたたくものでもありません。また痛いのに我慢してたたいてもらうことでもありません。

違いがわかる肩たたき法、本当に気持ち良い方を選んでやってみてはいかがですか。

かるくかるく…。



古今東西

第十回

文・勝間田太郎

明治の文豪、こんなこと書いてます。

夏目漱石、森鷗外のこの小説知っていますか？

●「娯楽」が「お勉強」に変わる時

読書を勉強や教養に結びつけて考え、難しいものだと思いついて入っている人は多い。学校の教科書のような「勉強の道具としての本」のイメージが強いからかもしれない。

しかし、読書の魅力は広い意味での「面白さ」にある。「ためになる」「感動する」ということも「面白さ」の一部だが、それがすべてではない。「笑ってしまう」「はらはらドキドキする」「元氣が出る」「泣ける」等々、さまざまな意味での「面白さ」が読書の魅力だ。

文豪と呼ばれる人たちの小説は、現在ですっかり「お勉強」の仲間入りをしてしまった。しかし、なぜ現在まで

名前が残っているかといえば、そもそも「面白くて」「発表當時うけたから」だ。

今日では、映画やテレビ、テレビゲームが娯楽になっているが、かつては小説が主な娯楽だった時代があった。いま現在、テレビゲームを教養だと思っでやっている人がいないのと同様に、かつては小説を教養だと思っで読んでいる人は、あまりいなかったのである。

テレビゲームの「スーパーマリオ」だつて、あとは百年もたてば、教科書や年表に「20世紀後半を代表するテレビゲーム」として登場し、学生は暗記する必要が出てくるかもしれない。そうならば「スーパーマリオ」も勉強の仲間入りをしてしまう。

教養や勉強だと思われているもの、あるいは古典と呼ばれるもの、あるいは古典と呼ばれているものの多くは、発表當時は娯楽であり、生きるによつては通俗的でくだらないとさえ言われていたのだ。

●訓練すれば面白くなる

なぜ娯楽がお勉強に変化するのだろうか。

最大の理由は、「面白さがわかるのには、何事にも訓練が必要だから」だと思う。

テレビゲームが本格的に面白くなるのは、操作が上達し高得点をあげられるようになってからである。

パソコンのインターネットやメールが楽しめるのも、キーボード操作ができるようになってからである。最初はキーボードを覚えるのが苦痛だった人も多いはずだ。そこを

乗り越えなければ楽しめる段階には進めない。

スポーツだつて、あまりにヘタでは面白くない。自分の思うような動きができて、はじめて楽しめる。

そういった障害は、たいてい娯楽ならでは面白さによつて乗り越えられる。

小説の生きる、「文字を読む」というのが、最大の障害になる。テレビのように、目の前で自動的に話が進行してくれないので、自分で文章を読む必要がある。また、他の娯楽が増えたことで、本に興味を持たない人も相対的に増えてきた。さらに昔の小説のばあい、年々理解できない言葉が増えていく。

「読む」という障害を乗り越えて「一定量の文章が苦も

なく読める段階」まで進める人は、それほど多くない。どうしても勉強や訓練として取り組まざるをえず、特に昔の本を読むのは「お勉強」になりがちだ。

●娯楽として読む明治の小説

それならば、今の人には理解しにくい昔の言葉を現在の言葉に書き換えて読みやすくすれば、明治時代の小説の面白さもすぐに感じとれるだろう、というのが、今回の原稿の趣旨である。

原文は長いので、一部分を抜き出し、ダイジェストで紹介する。私が表記を変更したり省略した部分があるが、基本的には約百年前の原文にかなり近い形で掲載している。

●夏目漱石「第十夜」より

庄太郎は、電車に乗って山



勝間田太郎氏

へ行つたんだと答えた。

庄太郎の話によると、電車を降りるとすぐ野原へ出たそうである。非常に広い野原で、どこを見まわしても青い草ばかり生えていた。

女といっしょに草の上を歩いて行くと、急に断崖絶壁のてっぺんへ出た。そのとき女が庄太郎に「ここから飛び込んでごらんさい」といった。底をのぞいて見ると、崖は見えるが底は見えない。

庄太郎はパナマの帽子を脱いで再三辞退した。すると女が「もし思いきって飛び込まなければ、豚になめられますがようございますか?」と聞いた。庄太郎は豚が大嫌いだ。けれども命にはかえられないと思つて、やっぱり飛び込むのを見合わせていた。

そこへ豚が一匹鼻を鳴らして来た。庄太郎は仕方なしに、持っていたステッキで、豚の鼻をぶった。豚はぐうといいいながら、ころりとひっくり返つて、崖の下へ落ちていった。庄太郎はほっとひと息ついて、いると、また一匹の豚が大きな鼻を庄太郎にすりつけに

来た。庄太郎はやむをえずまたステッキをふり上げた。豚はぐうと鳴いて、またまっさかさまに崖の底へ転げ込んだ。するとまた一匹あらわれた。

この時、庄太郎はふと気がついてむこうを見ると、はるか草原の尽きるあたりから、何万匹か数え切れぬほどの豚が、群れをなして一直線に、この崖の上に立っている庄太郎を目がけて鼻を鳴らして迫ってくる。

庄太郎は心の底から恐ろしくなった。けれども仕方がないから、近寄ってくる豚の鼻頭を、一つ一つついでないにステッキでぶつていった。

不思議なことに、ステッキが鼻へさわりさえすれば豚はころりと谷の底へ落ちて行く。のぞいて見ると底の見えない絶壁を、逆さになった豚が行列になつて落ちて行く。自分がかんなに多くの豚を谷に落としたかと思うと、庄太郎は我ながら怖くなった。けれども豚は続々くる。黒雲に足が生えて、青草を踏み分ける様な勢いで数限りなく鼻を鳴らしてくる。

庄太郎は勇気を出し、必死になつて、豚の鼻頭を七日六晩たたいた。けれども、とうとう精根が尽きて、手がコンニャクのように弱つて、しまいに豚になめられてしまった。そうして崖の上へ倒れた。

解説……この「第十夜」は、夢を小説にしたという設定の短編集「夢十夜」の十話目の作品である。夢とはいえ、とんでもない話を書いているぞ、夏目漱石。

「坊っちゃん」「吾輩は猫である」「こころ」など、いまでも娯楽小説として読める作品が多数ある。

●森鷗外「エタ・セクスアリス」より

妻というものを、どうせいつか持つことになるだろう。持つにはイヤなやつでは困る。イヤか好きかをこつちで決めるのは容易である。しかし女だつてイヤな男を持つては困るだろう。

生んでもらつた親に対して、こう言うのは、恩義にそむくようではあるが、女が僕の容貌を見て、好きだと思つたうことは、ちよつと想像しに

くい。あるいは、みずからをわきまえたオタフクが僕を見て「あれで我慢をする」と言うようなことは無いとも限るまい。

しかし我慢をしてくれるにはおよばない。そんなことはこつちから辞退したい。そんなら僕の魂の側はどうだ。あまり結構な魂を持ち合わせているとも思わないが、これまでも色々な人に触れて見たところが、僕の魂がそう気恥ずかしくて、包みかくしてばかりいなければならぬようにも思わない。魂の試験を受けることになれば、僕だつて必ず落第するとも思わない。

さて結婚の風俗を見るに、容貌の見合いはあるが、魂の見合いは無い。その容貌の見合いでさえ、なかだちをする者の言うのを聞けば、いつでも先方では見合いを必要ないと言っているということだ。女は好き嫌いを言わない。ただこつちが見て好き嫌いを言えはいというのだ。娘の親は売り手で、こつちが買い手ででもあるようだ。娘はまるで物品あつかいを受けている。

ローマ法にでも書いたら、奴隷と同じように、物品としてしまわねばならない。僕はきれいなおもちゃを買いに行く気はない。

ざつとこういうようなことを、なるだけお母様にわかるように説明してみた。お母様は、僕が魂では落第しないが、容貌では落第しそうだというのが、大不服である。

解説：「舞姫」を国語の授業で習い、漢文調の文体が印象に残っている人も多いことだろう。しかし、漢文調でなく現代人にもわかる文章の作品も多い。

森鷗外は明治政府の官僚(軍医)だったが、職業の選択や結婚についての疑問や迷についてしばしば書いている。現在のフリーターや未婚の考えにも通じるものがあり、いわゆる重厚な「文豪」のイメージにそぐわず驚く人もいるかもしれないが、それこそが森鷗外の特徴のひとつである。

言いたい放題

「アツい、アツい!! そんな声が日本各地で聞こえた今年の夏、さらにもっと日本人をアツくさせたのはヨーロッパの地ギリシャアテネではないだろうか。聖地アテネで行われた第二十八回オリンピック。今大会は私達日本人にとつて予想以上にアツかった。連日のメダルラッシュ、選手達の熱い戦いに観ているこちらにも(私の場合TV観戦だが)感動を憶えた。出場する事でさえ相当難しいのに、その中で尚且つメダルを獲得する事は、それこそ「凄い!!」の一言では失礼すぎて言い表せない。ここに至るまでは、私達一般人には想像する事さえできない悩みや苦しみを乗り越えてきた事だと思う。人生経験の浅い私が言うのと軽々しく聞こえてしまうが、選手の皆さん本当にお疲れ様でした。また大きな感動をありがとうございます。

金メダルを獲った選手を見て「世界一とはどういうことだろう」とふと考えてみると、そこには、私の考える限り本人の才能や月々のたゆまぬ努力があるのは勿論、それらを活かしている環境等その全てが世界一なのではないかと思う。その中でも環境というのは、非常に大きなウェイトを占めていて、それが整わなければせっかくの才能を伸ばす事もできないし、血のにじむようなトレーニングや試合の重圧にうち勝つ精神力も養えないと思う。

例えばこの夏まだ記憶に新しいハンマー投げの室伏選手。今まで日本人には金メダルは不可能と言われたこの競技で見事金メダルを奪取、いくらハンマー投げのサラブレッドで才能があつたとしても、もし彼がハンマー投げに興味を抱けなかったり、たとえハンマー投げをやっていたとしても良いコーチ陣に恵まれなかったとしたら世界一どころかひよっとするとオリンピック出場さえ難しかったかもしれない。本人の類稀な才能を引き出し、その才能を伸ばし世界一にしていける環境があつたからこそ不可能と言われた金メダルを掴む事ができたのではないだろうか。

私達建設業界は数年前に比べると皆さんもご承知のとおり、アツい業界とは言えなくなっている。しかし、今までは少し物の見方を変え、広い視野でこれまで気付かなかった個人の才能を活かす環境づくりができれば、この厳しい状況を脱し、室伏選手のように大きな大きな金メダルを獲得事ができるかもしれない。その為にもまず私達一人一人の心をアツくさせ、常に方々にアンテナを張り、自分自身を磨いていく事が必要となってくる。せっかく環境が整っているのに、それに気付かないでいては、それこそ何にもならない。

私の余暇 At one's leisure

(株)大東建設
柳下 豊彦

最近の余暇のほとんどは、小学四年生の一人息子と一緒に過ごしています。

この夏は、湯が島の山で昆虫採集やキャンプをしたり、戸田や沼津の海で泳いだり釣りをするたりと子供本位の休日となりました。

子供本位といっても一緒に遊ぶ感覚で私自身も結構楽しんでいきます。山でのキャンプは親子共生まれて初めての経験で、テントも説明書を読みながらや々と組み上げ、バーベキューの食材の刻みや炭の火熾しなど、家族協力しての非日常体験のおもしろさを満喫した二日間でした。

息子が親と遊んでくれるのもあと二・三年でしょうから

休みは、出来るだけ家族サービスを優先しようと思つています。

さて自分の趣味はというと、若い頃尊敬する先輩から『建築を業とする者は、雑学が必要でなんでも浅く広くだんだん深く勉強する事が仕事にも役に立つ』と言われ、それを信条としていて、海釣り・熱帯魚や柴犬の飼育・美術鑑賞・古建築や史跡めぐり・年に一度の温泉旅行・最近始めた水彩画などで、時間もあまりとれないので、わざわざ遠くへ行く事もなく、釣りは沼津の防波堤・美術鑑賞は自宅近くの佐野美術館・古建築や史跡も近在の杜寺・城跡などでも中城跡は、全国でも屈指のもので一見の価値があると思います。

この様に浅く広い趣味を、どれだけ深めていけるかが今後の課題です。



東光建設(株)

小長谷弘道

我が少年時代は昭和20年代後半から30年代前半、戦後間もない荒廃した日本、娯楽の少ないその時代の楽しみは野球と相撲でした。相撲については栃若時代を築いた相撲巧者の栃錦のファンでした。野球につきましては、当時、私は鼻眞のプロ野球チームは東映フライヤーズ、都市対抗野球では山静の暴れん坊と異名をとり、黒獅子旗を箱根路より西に越えさせました大昭和



製紙、高校野球は甲子園へのキップを取り得た我が故郷の代表チーム、それらの試合、ラジオからながれる実況放送に一喜一憂したものでした。

特にプロ野球の実況放送では、アナウンサーの志村政順さん、解説の小西得郎さん、お二人の絶妙のコンビネーションは今も私の頭に残っております。

当時、プロ野球の花形プレイヤーは、赤バットのジャイアンツの川上哲治一塁手、青バットのフライヤーズの太下弘外野手に代表されると思います。

私の心に残る選手・虹の彼方に放物線を描いての華麗なるホームラン、豪放磊落な明るい性格、東映フライヤーズの太下弘選手の大ファンでした。

後に西鉄ライオンズに移籍し、怪童／中西太選手と共に知将／三原脩監督に仕えて西鉄ライオンズの黄金時代を築きましたのも、今は懐かしい思い出です。

私の一枚は、平成10年より我が息子に加わった彼が、慶

応義塾大学野球部時代、東京六大学・秋のリーグ戦に神宮球場に放ったホームランの力レンダー写真です。

6年程前に、恩師の慶応大学前野球部監督の前田祐吉先生の媒酌で私の娘と結婚、式の最後に当時の野球部員が壇上に上がり、若き血に燃ゆる者」と慶応校歌をスクラムを組み唄いました時には、少年時代の野球に想いを馳せまして、思わず目頭が熱くなりました。そのホームランの力レンダー写真が、一九九六年の時を過ぎた今も拙宅の壁に掛かりまして、あの太下弘選手のホームランと相俟って、齢を重ねた今も想いを持續させております。



20 km上空の人工衛星からの信号をキャッチすることで、車の所在地を割り出し、その情報を携帯電話網でセンターが把握するGPS装置を備えた車がアメリカで急増し、4年前の60万台から今年は120万台になる見通しだそうです。タクシーやバス、トラックなど車を多く抱える会社が、車の所在地を把握することで、

運行の効率を高めるのがねらいだそうです。ノースカロライナ州では救急車に設置し、急病の電話があると、配車係はGPSを使い、もよりの救急車と最適ルートを瞬時に選び出し患者の所へ向かわせるようにした所、現場到着時間が10%早くなったそうです。またワシントン州では廃棄物運搬のトラックに装備し、渋滞を回避することで無駄な時間をなくすというような成果をだしているそうです。今まではGPSといえばカーナビを連想していましたがそれだけではないようです。



秋深みマラソン大会走りゆく

小学生の姿眩しき

職業を無しと書くこと些かの

抵抗持ちちて主婦と記入す

柚子の木の鋭き棘は実採らるを

拒む如くにわれの手を刺す

杉山孝子



来し方を語る湯宿の

夜長かな

友逝きし桜紅葉の

散り急ぐ

綿虫や諸行無常と

いふ言葉

水谷美保子



渡辺建設(株)

小林 泰三



大学四年の頃、ホノルマラソンへ参加しました。ホノルマラソンへの出場は私の夢でした。就職を間近に控え、挑戦できるのは今しかないと思い出場を決意。当然フルマラソンは初めての経験でしたので、その日から練習を開始。結局42・195Kmを一度も走破出来ずに本番を迎えました。当日の朝、まだ暗闇の中スタート合図の打ち上げ花

火を横目にスタートしました。辺りはお祭りムード一色。そんな雰囲気にもまれたのか、いつもよりハイペースだと感じていたのですが、気分が良く抑えることができませんでした。折り返し地点通過後、ハイペースがたたったのか、膝に痛みを感じペースダウン。また、追い打ちをかけるように激しいスコールにみまわれ、ついに歩いてしまいました。すると一人のランナーが私の肩を叩き「後ろを見てごらん。もう少しだからがんばれ。」と声をかけてくれました。言われるままに後ろを振り返ると、今まで見たことのない、大きくくっきりした虹が目に見え込んできました。不思議なことに体の底から闘志が湧きだし、再び走り出すことができました。そしてゴール。結果は散々でしたが、貴重な体験をして、なにより自分の限界にチャレンジし、完走できた優越感で自然に涙が零れたことを思い出します。

この写真は完走者だけが手にすることのできる完走証明書です。今でも大きな壁や、困難にぶち当たった時などこれを眺め、勇気と闘志を奮い立たせています。



今年の夏はとにかく暑かった。全国各地で真夏日の記録更新の報が、続々と耳に入ってきた。暑さに弱い私にとっては、とんでもない事だ。もう朝から晩まで「暑

(株) 齋藤組
齋藤 芳

父は自営業のためか、学校から帰ってくるとだいたの家(会社)にいます。事務所は仕事場だから子供はだめとよ

い、暑い」の連発、大安売り、では私、寒さに強いのかと言うとこれがまた、ちょっと寒いと「寒い、寒い」の大連射。妻曰く「あんたはただの根性なし、うるさいだけだよ」と軽くあしらわれてしまう。そこで、私屁理屈おやじとしては、反論してしまうのである。「ばか、俺は別に夏や冬が苦手とか、キライとかじゃない。普通の人より、気温に対する感性がちょっとだけスルドイ

く言われているのですが、面白そうなので宿題をやると言ってそうっと居させてもらうことがときどきあります。

事務所では、父は真面目な難しい話を会社の人として話しかけづらい雰囲気です。ときどき怖い様な時もあります。同じ建物の中に居るのですが、夕飯を一緒に食べれることはあまりありません。

事務所の仕事が終わって2階へ上がっていると、典型的なおやじギャグばかり言いながらしつこく学校の話を聞いてかまっています。笑えないギャグを言いながらご飯をたくさん食べている父を見ると、さっき事務所に入

いのだ」と。でもホント、負け惜しみではなく、夏も冬も好き、強いて言うなら春も秋も、ようするに日本に存在する四季を結構気に入っている。暑い時には「あー暑い」寒い時には「ひえー寒い」と言いながら四季を楽しむ、現代的風流人と勝手に思い込む私にとって、秋はサンマで決まり。仕事ばかり追われてないで、日本を少し楽しみましよう御同輩。

な気持ちです。大人という事なのだと妙に納得しています。私も最近大人になってきて、新聞を読んだりニュースで聞いたことを自分なりに考えてみると、今父の仕事はとても大変な時なのだというのを感じます。ストレスがきつとたくさんあるに違いないと思います。でも、父は家では明るいんです。かなりしつこいギャグですが、これが父のストレス解消なのかなと思います。事件のニュースを聞くと必ず「気を付けろよ。」と言うのが父のくせの様です。これが父の愛情だなと、私は感謝しています。

●現場代理人の声

大藤建設(株)

中村弘昭



時が経つのは早いもので、私がこの仕事に就いて三年が経とうとしています。この業界では、以前作業員として働いていたこともあって、まったくの素人ではないにしても、今までとは違う立場での仕事の難しさに日々頭を悩ましています。そんな私も現場代理人として仕事を任されるようになり、最近感じることには「毎年こんなだったかな?」と考えるような気象状況です。私を担当しているのは土木工事、で天候に非常に左右される仕事です。最近担当した現場では、まさに自然との闘いでした。今年は特に異常気象で台風が例年よりも多い数の上陸したり、集中豪雨による土砂

災害も多数報告されました。今日、温暖化現象やオゾンホールの問題等地球規模の環境問題が深刻になっています。このような問題に建設業に携わる人間として出来ることは非常に多いと思います。まず出来ることから取り組んで、よりよい環境を整備していきけるよう努力していきたいと思っています。

地区だより

治山等、パトロール実施

小山支部

(社) 沼津建設業協会小山支部は、例年行っている治山・道路・河川パトロールを。本年より、地域防災パトロールとし、町民サービスの一環として行った。



ベトナム(ハノイ)にて

全員研修会を開催
御殿場支部

御殿場市建設業協会(高杉周作会長)は、会員の一層の親交、親睦を主要なテーマとして平成16年度、会員研修会を開催いたしました。(参加19名)



写真コンクール作品募集

- 一、応募資格
 - ・協会会員、家族、社員
 - ・協力会社、家族、社員
 - ・「いしずえ」の読者
- 二、課題
 - ・自由
- 三、作品
 - ・カラー又は白黒
 - ・キャビネ、四つ切り、八つ切り
- 四、募集期間
 - ・平成16年9月1日
 - ～12月31日
- 五、作品の送付先
 - ・(社)沼津建設業協会
 - ・広報委員会
- 六、賞金
 - ・最優秀賞 一点 五万円
- 七、審査
 - ・主催者(広報委員会)
- 八、発表
 - ・平成17年3月1日発行の「いしずえ」にて表彰する。
- 九、募集上の注意事項
 - ・応募作品は、作品名、作者名を表示すること。版權は、当協会に帰属する。
 - ・「ネガ」又はロムも作品に同封すること。

主要行事予定

- ◎沼津工業高校生インターンシップ学習
 - 日時 11月16日(火)～17日(水)
 - 場所 協会員各受入先
- ◎年末強化安全パトロール
 - 日時 12月7日(火)9時～



安全標語

今日も安全 あふれる笑顔に
誇がにじむ
整理整頓きれいな現場!!
事故無しゴミ無し安全作業

岳南建設(株) 栗本敏夫
千代田産業(株) 矢後 忠